

心疾患の患児における周術期口腔機能管理に関する実態と今後の課題について

○長谷川 尚郁、野瀬 可奈子、西垣 奏一郎、
柳田 憲一
福岡市立こども病院 小児歯科

【目的】

当院では心疾患の手術を行う際に、希望のある患者には術前から周術期口腔機能管理を行っている。また術後に介入が必要な場合にもPICUと連携し、介入している。現状と今後の課題について検討したので報告する。

【方法】

小児歯科新設された2015年4月から2016年3月までに歯科衛生士が周術期口腔機能管理を行った176名(男児80名、女児96名)を対象に後ろ向き調査を実施した。調査方法は院内電子カルテのデータベース解析ソフトCLISTA SEARCHを使用し、対象患者を抽出後、年齢、心疾患、入院日数、歯科受診歴の有無、歯科介入時期について調査した。

【結果】

- 1)年齢：22日から21歳で平均年齢は4歳8か月であった。
- 2)心疾患：心室中隔欠損症30名、次いで心房中隔欠損症20名、右室型単心室症14名であった。その他左心低形成症候群、肺動脈狭窄症など多岐に亘っていた。
- 3)在院日数：6日から233日で平均日数は32日であった。
- 4)歯科受診歴の有無：既往ありが84名(48%)、既往なしが92名(52%)。
- 5)歯科介入時期：手術決定前60名(34%)、術前95名(54%)、術後21名(12%)。

【考察】

周術期口腔機能管理を行うことにより、合併症の予防や患者のQOL向上に寄与することが近年多数報告されている。しかしながら、多くの報告はがん領域であり心疾患における報告は少ない。今後は心臓血管手術時における口腔ケアの効果を検証し、周術期口腔機能管理の重要性を明らかにする必要であると考えた。

歯学部学生による食育(間食)説明用リーフレット作成およびロールプレイ演習

○森川和政、梅津哲夫、坂本淑子、塩野康裕、
木村友美、牧 憲司(九歯大・小児歯)

【目的】

歯学教育においても多くの臨床疑似体験が積めるように臨床経験不足な診療内容を補う目的で、シミュレーション教育が注目されている。ロールプレイを含むシミュレーション教育は、小児歯科領域では患児が低年齢であること、それに加えて二者(医療者と患者)のみならず三者(医療者と患児と保護者)の関係となることから既存の方法では対応が難しいため、新たな教育方略の検討が必要である。今回、臨床実習中の学生が診療により参加できるようになるために、学生自らが患児・保護者説明用のリーフレットを作成しロールプレイ演習を実施したので報告する。

【対象および方法】

学生自らが食育(間食)説明用リーフレットおよびロールプレシナリオを作成した。ロールプレイの様子はビデオカメラで撮影しフィードバックの際に用いた。さらに実際の患児・保護者へ作成したリーフレットを用いて医療面接を行った。ロールプレイ終了後および医療面接終了後に学生・保護者に対してアンケートを実施した。

【結果および考察】

学生・保護者に対するアンケート結果より、今回、実施したリーフレット作成、ロールプレイ演習は、学修者の学修意欲と目的意識の向上を促し、自発的な問題点の抽出やディスカッションが可能となると考えられた。また、学修者の自己の行動を客観的な視点で捉えることが可能であった。さらに、患児と保護者に対する基本的なコミュニケーション能力や信頼関係の確立の向上に有効であると考えられた。今後もロールプレイ演習等を活用して、学生のスキルアップとモチベーション向上を図る学びを検討したい。